

Si-R220C V34.02 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	WEB設定画面の改善	WEB設定画面のタイトルバーに機種名を表示するようにしました。装置名称設定時には装置名称(ホスト名)を表示します。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V32.03～	ハードエラーが常時発生している状態で、clear logging errorコマンドを発行するとFLASHメモリ内に同一ハードエラーログ情報が誤って重複して記録されることがある。
2	V34.00～	BGP 相手側アドレスの設定(bgp neighbor address定義)が、システム最大数未満でも最大値超過のエラーとなることがある。または、システム最大数を超過してもエラーとならず設定できてしまうことがある。
3	V32.03～	IKEネゴシエーション開始要求送出後にIPsec/IKE関連の動的定義変更を行うとシステムダウンする場合がある。
4	V33.00～	IPsec/IKE(自動鍵交換)設定し装置再起動(save/reset操作)後にIKEネゴシエーションが実行されないことがある。
5	V32.03～	NATトラバーサル機能未使用のIPsec/IKE環境において、装置内に存在しないIPアドレスを受信するとIKEネゴシエーションの応答を返してしまう場合がある。
6	V32.03～	ping,telnet,updateコマンドがDNS解決失敗によりエラー終了する場合がある。または、VRRP MIB取得、SNTPクライアントによる時刻同期に失敗することがある。
7	V34.00～	IKE鍵交換モードにAggressive Modeを使ったNATトラバーサルが動作する構成で、運用中に装置のハングアップやシステムダウンが発生する場合がある。
8	V33.00～	IPsec接続にてIPsec SAとIKE SAの確立が遅い場合がある。
9	V33.00～	remote ap recovery定義を変更し、commitすると定義が反映されない。
10	V32.03～	IPv6ルーティングが有効な環境において、リンクローカルアドレスのDuplicate Address Detection(DAD)検出後、グローバルアドレスに対するNeighbor Solicitation(NS)送信にNeighbor Advertisement(NA)応答してしまう。
11	V32.03～	IPv6マルチキャストアドレスのUDPパケットを受信した場合に、“show ipv6 traffic udp”で表示される“delivered”が不正になる場合がある。
12	V34.00～	LLDP送信設定において、管理者が装置へ設定するマネージメントアドレス情報がLLDPDU(最大1500バイト)に収まりきらなかったとき、システムダウンする。
13	V34.00～	LLDP機能を有効にする設定を装置起動後通算10万回以上実行すると装置動作がハングアップすることがある。
14	V34.00～	不当な内容を含むLLDP隣接情報パケット受信後に、show lldp neighbors detail コマンドを実行すると装置がループしたりシステムダウンすることがある。
15	V32.03～	内部ホストから外部へPING送信する際、ICMP ID = 0でPING監視を実行するとそれ以降、内部装置からPINGが一切出来なくなる。その際本装置から同一の監視先へPINGを実施すると正常に応答が返ってくる。
16	V30.00～	NATテーブルに対応エントリが存在しないフラグメントパケット送受信時に先NATによる変換がおこなわれない。
17	V32.03～	マルチNAT使用時にプライベート側からグローバル側へ次のパケットが転送されると、他のプロトコルや0以外のポート番号のUDPパケットに対して誤ったNAT変換が行われてしまう。 ・プロトコル番号0番、もしくはUDPポート番号0番のパケット
18	V32.03～	static NATでICMP ECHOパケットやICMP ECHOREPLYパケットを変換する設定の運用環境で、プロトコル番号に1やanyを指定し、かつポート番号を設定したstatic NATの条件にマッチした場合、誤ってパケット内のICMP IDの変換を行わない場合がある。
19	V32.03～	本装置にsshあるいはsftpで接続したとき、装置内処理に遅延が発生し、セッション監視タイムアウトやVRRP切り替え発生などの運用に影響を及ぼす場合がある。
20	V32.03～	通信中に動的定義反映を実行すると、VLANからのパケット受信ができなくなる場合がある。
21	V32.03～	インタフェース統計情報の一部にパケット受信してもカウントアップしないことがある。
22	V34.00～	Web設定画面にて、ARP認証の通信妨害の定期送信間隔指定で設定可能範囲が0、10～43200秒(12時間)にもかかわらず、単位がデフォルトで「日」がブルダウ表示される。
23	V32.03～	仮想インタフェースで帯域制御を使用すると正しく動作しないことがある。
24	V32.03～	帯域制御指定がない環境において、フラグメントされたIPv4以外の送出パケット順序が、入れ替わるときがある。
25	V34.01～	NTPクライアントとして動作するWindowsXP端末の「日付と時刻の調整」の「インターネット時刻」タブから時刻同期できないことがある。
26	V34.00～	複数ログインアカウントが定義された環境においてtelnetでログインできない場合がある。
27	V34.00～	マルチルーティング機能を有効(multiroute pattern use)に設定した環境において、選択されたapへ先頭フラグメントパケットは送出されるが二番目以降のフラグメントパケットが送出されない。
28	V32.03～	マルチルーティング機能をバックアップ(multiroute pattern backup)に設定した環境において、選択されたapへ先頭フラグメントパケットは送出されるが二番目以降のフラグメントパケットが送出されない。
29	V32.03～	自装置から129以上の宛先への同時パケット送信と、同じ宛先への転送パケットが共に大量に発生する環境において、システムダウンが発生する場合がある。
30	V32.03～	PIMによるマルチキャストパケットの転送時、送出先インタフェースのダウン事象が発生すると続いて装置がシステムダウンする場合がある。